

第 3 2 回原産年次大会セッション構成

基調テーマ：「原子力は地球を救えるか」

開催 日：平成 11 年 4 月 12 日（月）～14 日（水）

場 所：仙台国際センター

	4 月 12 日（月）	4 月 13 日（火）	4 月 14 日（水）
午前	<u>開会セッション</u> (9:30～12:15) ○向坊原産会長所信表明 ○有馬原子力委員長所感 ○浅野宮城県知事挨拶 ○西澤大会準備委員長講演 (特別講演) (10:40～12:15)	<u>セッション 2</u> (9:00～12:00) 「原子力長期計画に何を求めるか」	<u>セッション 4</u> (9:00～12:00) 「『もんじゅ』の運転再開と P u リサイクル、F B R の 将来」
	昼休み (12:15～13:30)	午餐会 (12:15～14:15) (レセプションホール 「桜」) 原子力映画上映 (13:15～14:15)	昼休み (12:00～13:30)
午後	<u>セッション 1</u> (13:30～17:00) 「文明とエネルギー・セキュリティ」	<u>セッション 3</u> (14:30～17:30) 「情報公開・情報提供の あるべき姿」	<u>セッション 5</u> (13:30～16:30) 「高レベル放射性廃棄物処分 はどうあるべきか」
夜	<u>レセプション</u> (18:00～19:30) (仙台国際ホテル 「平成の間」)	<u>市民の意見交換</u> (17:45～19:45) (「橘」) 「地域から見た原子力政策」	(テクニカル・ツアー) ◇六ヶ所村コースのバス 出発 17:00 ◇女川コースは翌日日帰り

第 32 回原産年次大会セッションテーマ、内容（案）

基調テーマ：「原子力は地球を救えるか」

開会セッション（1日目：4月12日(月)午前）

【議長】 八島 俊章 東北電力(株) 社長

- 向坊 隆 原産会長所信表明
- 有馬 朗人 原子力委員会委員長所感
- 浅野 史郎 宮城県知事挨拶
- 西澤 潤一 年次大会準備委員長講演

【議長】 金井 務 (株)日立製作所 会長

【特別講演者】

- 荒木 浩 電気事業連合会 会長、東京電力(株)社長
- 張 榮 植 韓国電力公社 社長
- E. モニッツ 米エネルギー省（DOE）次官
- M. エルバラダイ 国際原子力機関（IAEA）事務局長

セッション1 文明とエネルギー・セキュリティ（1日目：4月12日(月)午後）

各国のエネルギー政策は、それぞれの内政事情、風土、文化の影響のもとに構成されている。各国の持つ文明とエネルギー政策との関連が強く意識される一方、エネルギー・セキュリティ問題は国家単位を超え、もはやグローバルな観点から取り組む必要性が高まっている。他方、先進国では電力自由化が加速し、経済性の追求が優先される傾向にあるが、規制緩和などの経済性優先の政策だけでは、エネルギーの長期的安定供給や地球温暖化問題への効果が疑問視される傾向も存在する。

ここでは、グローバル規模のエネルギー・セキュリティの確保を念頭に、各国・各地域のエネルギー政策の現状を概観する。環境保全、エネルギー安定供給の条件を満たす原子力の今後の評価も併せて考える。

【議長】 石田 寛人 科学技術庁 顧問

【講演】

- J. キッパー 米外交問題評議会 中東フォーラム 理事
- 鷺見 禎彦 関西電力(株)副社長

S.E.イオン 英核燃料会社(BNFL)総括本部長技術担当

B.バレ 仏原子力庁(C.E.A)原子炉局長

森本 敏 野村総合研究所 主任研究員

レセプション (1日目：4月12日(月)夜)

仙台国際ホテル 2階「平成の間」

セッション2 原子力長期計画に何を求めるか (2日目：4月13日(火)午前)

原子力開発のあり方が大きな関心を集めている中で、原子力委員会による「原子力開発長期計画」の見直しが、より開かれたスタイルで始まろうとしている。「開かれた長期計画」の策定により、いままでの長計とどう変わるのか、それにより国民の理解がどこまで得られるのか。一方で、原子力施設の立地に当たって、「国策」としての原子力開発の位置づけの明確化を求める地元の意向も強まっている。

ここでは、原子力開発長期計画としての課題を検討すると共に、原子力政策は如何にあるべきかを、原子力関係者だけでなく、広く有識者、労働組合などの代表の参加を得て、根本的議論を行う。

[議長] 西澤 潤一 岩手県立大学 学長

[問題提起]

田原 総一朗 評論家

[パネリスト]

田原 総一朗 (前出)

依田 直 電力中央研究所 理事長

鳥井 弘之 日本経済新聞社 論説委員

石橋 忠雄 弁護士

村上 忠行 日本労働組合総連合会 (連合) 総合政策局長

午餐会 (2日目：4月13日(火)昼)

保坂 三蔵 通商産業政務次官所感

[特別講演者] 森本 哲郎 評論家

セッション3 情報公開・情報提供のあるべき姿

(2日目：4月13日(火)午後)

情報公開法が今国会で成立の見込みであり、「核燃料サイクル開発機構」は自らの指針に基づき、すでに公開をはじめた。これらは透明性を確保するもので、国民の理解と信頼の基礎となる。しかし、その上に国民各層のニーズに応える分かり易い情報の提供が必要である。情報へのアクセス、事故トラブル情報の開示、核物質防護などによる情報不開示、生産地と消費地の情報交流などを考えながら、情報公開・情報提供のあるべき姿を探る。

〔議長〕 大山 彰 (財)日本原子力文化振興財団 理事長

〔キーノート〕

笹谷 勇 核燃料サイクル開発機構 理事

〔パネリスト〕

稲葉 清毅 群馬大学 社会情報学部 教授

須田 善二郎 女川町長

角田 道生 原子力問題情報センター 常任理事

塩越 隆雄 東奥日報社 編集局長

矢ヶ部 英夫 日本原燃(株)取締役立地広報部長

飯田 哲也 (株)日本総合研究所 主任研究員 (エネルギー環境政策)

市民フォーラム 2001 運営委員

市民の意見交換 地域から見た原子力政策 (2日目：4月13日(火)夜)

原子力開発には中央と地域との距離の隔たりが常にあり、その距離を縮める努力がなされてきたが、巻町の住民投票が象徴するように、距離はさらに広がろうとしている。反面、地域から考えたエネルギー政策、原子力政策のあり方も議論されるようになりつつある。ここでは、参加者が市民の立場から、地域からの原子力政策への関与の仕方などについて意見交換を行う。

〔司会〕 田村 和子 共同通信社 論説委員

〔コメンテータ〕 田原 総一郎 評論家

田中 裕子 山形女子短期大学 講師

森 一久 (社)日本原子力産業会議 副会長

〔発題者〕 (地元関係者、他)

セッション4 「もんじゅ」の運転再開とPuリサイクル、FBRの将来

(3日目：4月14日(水)午前)

「もんじゅ」のナトリウム漏洩事故以来、高速増殖炉(FBR)開発自体の是非論が交わされ、一方でプルトニウムの軽水炉での利用が始まろうとしている。ここでは、わが国のエネルギー・セキュリティ上から多大の期待を受け、その利用が進められているプルトニウムのリサイクル利用について、改めてその将来的な意味合いとともに、FBRの必要性、実用化の可能性、その経済性、核兵器解体プルトニウムの平和利用問題などを踏まえて議論すると共に、「もんじゅ」の役割と運転再開について議論する。

〔議長〕 近藤 駿介 東京大学 大学院 教授

〔基調講演者〕

都甲 泰正 核燃料サイクル開発機構 理事長

〔パネリスト〕

友野 勝也 東京電力(株)副社長

住田 裕子 弁護士

菊池 三郎 核燃料サイクル開発機構理事

横山 裕道 毎日新聞社 論説委員

J.L.リコー 仏核燃料公社(COGEMA)副社長

セッション5 高レベル放射性廃棄物処分はどうあるべきか

(3日目：4月14日(水)午後)

原子力の最後の課題と言われる高レベル放射性廃棄物処分については、事業主体を2000年までに決定、2020年半ばには処分場建設を開始し、2030～2040年半ばをメドに処分事業を実施するとしている。また、処分地となる地元自治体との共生を重要課題として取り上げている。ここでは、真に地元の発展と融合した施設となりうるか、施設と共に展開する業務内容などを議論するとともに、処分場の立地のあり方、事業のあり方など、今後の課題を検討する。

〔議長〕 森脇 昭夫 上智大学 法学部 教授

〔キーノート〕

佐々木 宜彦 通商産業省 資源エネルギー庁 長官官房審議官

[パネリスト]

- 小島 圭二 東京大学 名誉教授
青木 輝行 中部電力(株) 常務取締役
鈴木 康夫 高レベル事業推進準備会 専務理事
武田 衛 同和工営(株) 専務取締役
増田 純男 核燃料サイクル開発機構 2000 年ポ・トチム 部長
A.アレメールシュ 仏 オート・マルヌ県議会副議長

以上